

陸平通信

OKADAIRA 2020年10月1日発行
編集・発行 / 茨城県稲敷郡美浦村土浦 2359
美浦村文化財センター（陸平研究所）
☎ 029-886-0291 FAX 029-886-0471
Eメール :bunkazai@vill.miho.lg.jp

再びイノシシ現る



令和の世、陸平に

▲陸平貝塚から出土したイノシシの下あごの骨

少し前から陸平貝塚公園でイノシシの足跡などが確認され、来訪者へ注意のお知らせをしています。また最近では村内でも陸平以外の場所で目撃情報もあります。イノシシといえば少し前までは山の方にすんでいて美浦村民にとっては遠い存在の動物でした。

しかし、このイノシシ、実は縄文時代の人びとにとっては身近な動物でした。陸平貝塚はじめ縄文時代の貝塚からイノシシの骨が出土することはよくあります。縄文時代の人びとは自分たちで食料となる獲物をとっていましたが、その中にはイノシシもいました。落とし穴のような仕掛けを作ったり、弓矢など狩猟の道具を使って捕まえていました。生きていくために必死でイノシシを捕まえていた縄文の人びとはイノシシの習性を知り、知恵と技を駆使して捕まえて

いたことでしょう。捕らえたイノシシは石器などの道具を用いて皮をはいたり、肉を切って食べたり、骨は加工して装飾品や道具を作るなどして無駄なく使っていたようです。

陸平貝塚からはイノシシのあごの骨（写真）などが見つかります。また、現在文化財センターで展示している大谷貝塚（みほふれ愛プラザ付近）の貝層断面のなかにもイノシシの骨をみることができます。

今の世に縄文人がいたらイノシシをどんどん捕らえてくれるかもしれませんね。

現在も陸平貝塚公園内にはイノシシ捕獲のためにわなをしかけてある場所（人がわかる目印をつけてあります）があります。訪れる際にはご注意ください。



◀イノシシの腓骨（脚の骨です）の後ろにある骨を加工した刺突具。大谷貝塚出土。長さは6.1cmで、研磨して尖らせ表面には擦った時についた細かい筋がみられます。加工して元の骨の形が分からなくなっています。

イノシシのかかとの骨を加工した垂飾り。大谷貝塚出土。長さ10.3cmで、小さな孔をあけています。



▲イノシシの牙を加工した装飾品。御茶園西遺跡出土。孔を2か所あけ、表面には研磨でついた細かい筋がみられます。

「美浦かるた」で知るみほの文化財

今回の札は

「る」

瑠璃も玻璃も

かなわぬ光

貝断層

私たちは貝を食べるとき中身は食べて貝からは捨てます。貝塚は化石と違い、人間が貝を採ってきてその貝がらを捨てた場所で、現在も貝を加工する場所では貝塚が作られています。美浦村に何カ所もある貝塚のうち代表的な場所が国史跡になっている陸平貝塚です。

貝は海だけではなく川のような環境にも生息していますが、村内の貝塚から見つかっている貝は海にすんでいる種類の貝ばかりです。霞ヶ浦の歴史を紐解いてみると、かつては太平洋から海水が流れ込む内海で、美浦村は豊かな海に囲まれていた環境にありました。村内の貝塚は数千年前の縄文時代に人びとが海から貝を採り続けていたことで形成されました。

縄文時代、陸平に貝を捨てた人たちはどのような道具を用いて、どのような方法で貝を採ったのでしょうか。貝を採るための道具はまだ見つかっていません。

貝からはその種類や大きさ、貝を採った季節などを知らることができ、また、堆積している貝層からは人びとの貝の捨て方などにせまることもでき

ます。遺跡の調査からは縄文の人びとがどのような種類の貝を採ってきたのか、つまりどのような貝を食べていたのかを知ることができます。

村内の貝塚を調べてみると、貝の種類はどの遺跡も同じです。今も私たちが食べている貝もあれば、今は食べていない種類の貝もあります。一番多くみられる貝はハマグリで大きささまざまな貝ですが、現在はアサリの方が食べる機会が多いかもしれません。貝塚からはアサリも出土していますがハマグリに比べるとその割合はかなり少ない傾向です。ハマグリ以外に多く見つかる貝は、サルボウ、オキシジミ、シオフキ、バカガイなどの二枚貝、アカニシと呼ばれる巻貝です。これらの貝に共通していることはみなハマグリと同じような干潟の環境にすむ海の貝ということです。陸平の周りに広がる遠浅の海岸で縄文の人びとは貝を採っていたのでしょうか。

貝塚を見ていると縄文の人びとが貝ばかりを食べていたのではないかと思いがちですが、貝は食べ物の中のひとつにすぎません。貝塚の中から

は魚や動物の骨もたくさん見つかります。魚や動物の肉、木の実など現代まで残らないさまざまな食べ物がありました。

瑠璃はラピスラズリ、波留は水晶のことで優れていることを表しますが、数千年も前の縄文時代の歴史は今も貝塚の中で光り輝いています。



文化財センター展示室から — 陸平縄文人の作業場 —

前号に続き今回も9月から展示している資料をご紹介します。

陸平貝塚から西に500mほど離れた「谷津」とよばれる低い地形の場所にある陣屋敷低湿地遺跡をご紹介します。現在、遺跡は美浦ゴルフ倶楽部の池になっています。

ゴルフ場造成前の平成元（1989）年に遺跡の一部分を発掘調査したところ、谷の地表面からさらに約1.5mも下の位置から、多量の縄文土器の破片が足の踏み場もないような状態で集中して見つかりました。

縄文土器片がどのような規模で広がっているのか、その全容はわかりませんが、調査により、土器が残された頃すでに谷が形成されていたこと、そして縄文時代後期のそれほど長くない期間に集中して土器片が廃棄され、その後この場所は土砂などにより比較的短い期間で埋没したことがわかりました。

縄文土器はすべて割れた状態で、しかも何千年もの間水に浸かっているような環境に保存されていました。そのため、展示してあるほかの縄文土器と見比べると色調が灰色っぽいような感じにみえます。

破片をあわせてもとの形に復元し、土器の大きさ

をみると、みな同じ大きさではなく、似たような形の土器でも大小大きさの異なるものがあったことがわかりました。さまざまな大きさの土器が常備され、利用目的に応じて使い分けていたのでしょうか。土器の大きさを容量で表してみると、1ℓ～33ℓほどの規模の土器があることがわかりました。なかでも11ℓ～18ℓの規模の土器が量的に多い傾向がみられましたので、この大きさの土器がよく使われたことがうかがわれます。

遺跡では地面が赤く焼けて火を焚いた跡も確認されました。土器を捨てただけではなく、木の実のあく抜きなどの煮沸作業をおこなっていたことも考えられます。

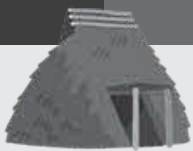
ここは人が住めるような環境ではなく、陸平貝塚にいた人たちが利用していた場所だったのでしょう。

陣屋敷低湿地遺跡は、陸平縄文人の暮らしを考えると欠かせない重要な遺跡のひとつです。遺跡周辺の地形は変わりましたが、遺跡の一部は今もゴルフ場内の池の底に残されています。

どうぞ展示室で実際の土器をご覧ください。



▲陣屋敷低湿地遺跡から出土した縄文時代後期（約4000年前）の土器



文化財センター展示室再開しています

新型コロナウイルス感染拡大予防および展示室改修工事のため、3月より8月まで閉室させていただいておりました文化財センターの展示室は9月1日より開室しており、文化財センター開館日にはいつでも見学できます。

現在の展示は、国史跡陸平貝塚の紹介を中心とした内容のほか陸平貝塚周辺の陣屋敷低湿地遺跡、村内の貝塚として大谷貝塚の貝層断面といった縄文時代を取り上げています。ほかにワンコーナーですが前号（陸平通信 102号）にてご紹介した江戸時代の村絵図を展示しています。

◆展示室開室時間 午前9時～午後5時



文化財センター体験のご案内

文化財センターでは体験をとおして文化財に親しんでいただこうと体験事業をおこなっています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため体験イベントは中止させていただいていますが、体験の受け入れはこなっています。個人でのお申し込みも1名より受けています。

詳しくは文化財センターまでお問合せください。電話886-0291

◆体験メニュー

縄文土器、土笛、まが玉、縄文クッキー、どんぐりカレンダー、どんぐり時計、さきおり、貝塚を調べる

◆事前に申し込みが必要です。

◆新型コロナウイルス感染拡大予防の対策をとったうえで対応をさせていただきます。状況によりご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。



文化財センターにご来館される 皆様へお願い

新型コロナウイルス感染拡大予防のためご協力をお願いいたします。

- ・マスクまたはフェイスシールドのご着用
- ・文化財センターの出入り口にて手・指の消毒
- ・体調がすぐれない場合はご来館をお控え願います。



陸平貝塚公園までの交通アクセス

【車】 by car
常磐自動車道「桜土浦IC」より
国道125号バイパスで約40分
圏央道「稲敷」より15分

【バス】 by bus
JR土浦駅より西口①バスのりば
木原經由江戸崎行き
「谷津入」下車 タクシーで約5分
または「大谷」下車 3.5km

